

## 平成24年度における施策評価

## 施策評価調書

政策コード	14	政策名	福祉サービスの充実		
施策コード	3	施策名	安全で快適なバリアフリー社会の実現		
幹事部局コード	4	幹事部局名	健康福祉部	担当	福祉政策課
評価者・実施日	1次評価（健康福祉部長）		平成24年7月31日		

## 1 施策の方向性（必要性と目的）

本県の高齢者人口及び高齢化率はともに年々増加し、平成27年には県民の約3人に1人が65歳以上になると見込まれており、また、身体障害児者のうちの約61%が肢体不自由障害児者という現状にある。

このような中で、高齢者や障害者、子育て中の人など誰もが安全で快適に過ごすことができるバリアフリー社会の形成が重要であるため、各種バリアフリー施策を積極的に推進し県民等への意識啓発の促進を図るとともに、身近な生活関連施設等や住宅、交通・移動などの取組を進め、バリアフリー社会の実現を目指す。

## 2 施策の状況

## (1) 施策目標及びその達成状況

●施策目標(評価指標)		基準値	年度	H23	H24	H25	H26	備考
		年度						
①	バリアフリー適合証交付施設（累計）	601	目標値	1,000	1,100	1,200	1,300	
		H19	実績値	888				
	福祉政策課調べによる	—	達成率	88.8%				
②	住宅のバリアフリー化率（新築住宅）（年間）	65	目標値	—	—	—	—	新築着工戸数が減少を続け既存住宅活用重視に移行しているため、新設住宅に限定する当該アンケートを終了。
		H19	実績値					
	建築住宅課調べによる	—	達成率					
③	歩道の段差解消箇所等整備率（累計）	55	目標値	82	84	86	88	
		H19	実績値	82				
	道路課調べによる	—	達成率	100.0%				
達成度				B				

達成度 A:「全て達成」 B:「半分以上達成」 C:「達成が半分未満」 D:「全て未達成」 E:「その他」

## (2) 施策の推進状況

## ①暮らしやすいまちづくりの推進

## ■取組内容

○県のホームページ内の「あきたバリアフリーマップ」を通じ、県内の公共的施設(約3,000件)のバリアフリー情報を提供するとともに、高齢者や視覚障害者等の閲覧に対応できる「らくらくWEB」ソフトによる情報提供を実施した。

○「秋田県バリアフリー社会の形成に関する条例」の整備基準を満たした施設に対して、「バリアフリー適合証」を交付するとともに、適合証交付施設のうち、特に優れた施設の表彰及び表彰事例等の広報啓発を行い、県民のバリアフリー意識の向上に努めた。

○健全者による車いす駐車場の不適正利用を防止するため、行政・民間団体・障害者団体・ボランティア等との協働で「車いす駐車場とめませんキャンペーン」を実施した。

## ■取組の成果

○県のホームページを通じ、全国各地の障害者等に対し、県内の公共的施設のバリアフリー情報を提供した。

○制度開始以来、これまで888施設にバリアフリー適合証を交付し、各地の施設出入口付近等で適合証の掲示が見受けられるようになった。また、秋田県バリアフリー推進賞は、過去7年間で24施設、14活動団体、5製品を表彰した。

○「車いす駐車場とめませんキャンペーン」の実施により、県民における車いす駐車場に関する認知度が高まった。

## ■課題と今後の推進方向

○「らくらくWEB」「あきたバリアフリーマップ」の運営を継続する。なお、平成24年度に、「あきたバリアフリーマップ」のシステム改修を実施し、機能の充実及び登録済施設に関する情報内容の更新など情報提供の充実に努める。

○県民のバリアフリー意識の向上を図るため、「適合証交付」及び「秋田県バリアフリー推進賞」を継続する。

○平成19年度以降、適合証交付施設数が大幅に鈍化しているため、県及び権限移譲市の建築担当部局から、施設所有者又は管理者に対する事前協議段階での指導・助言を的確に実施し、交付件数の増加を図る。

○車いす駐車場の適正利用を図るため、「車いす駐車場とめませんキャンペーン」を継続する。

## ②安全・安心な住まいづくりの促進

### ■取組内容

○秋田花まるっ住宅サポートネットワークチームによる、秋田花まるっ住宅の普及活動や高齢者・障害者等の住環境に係る研修会・講習会の実施や、各種イベントでの情報提供を行った。

○多世代同居を志向する人や子育て世代の住宅取得を支援するとともに、安心して快適に暮らせる住環境の整備・促進を図るため、住宅ローンの利子の一部を助成する「住まいづくり応援事業」を実施した。

○既存住宅の居住環境の質の向上を図るため、リフォーム等工事に要する費用の一部を補助する「住宅リフォーム緊急支援事業」を実施した。

### ■取組の成果

○「住まいづくり応援事業」の平成23年度の利用実績は648戸(平成22年度638戸)であり、前年より増加となった。

○「住宅リフォーム緊急支援事業」において、高齢者に配慮した断熱改修、段差解消などのバリアフリー改修など全体の3%、件数にして約400件工事が行われるなど、安全で快適なバリアフリー化の必要性が認識されてきている。

### ■課題と今後の推進方向

今後も、さらに既存住宅を含めた住宅全体のバリアフリー化を推進する必要がある。

## ③人にやさしい安全・安心なバリアフリー歩道等の整備促進

### ■取組内容

高齢者や障がい者なども含めたすべての人が暮らしやすい安全で安心な歩行空間を確保するため、歩道の段差解消や勾配改善、点字ブロック等の整備を実施する。

### ■取組の成果

公共交通機関の施設や官公庁の庁舎、福祉施設、医療施設、文化施設や商店街を結ぶ主要な経路を重点的に歩道の段差解消や勾配改善、点字ブロック等の整備を実施した。

### ■課題と今後の推進方向

本格的な高齢化社会を迎えた現在、高齢者や障がい者なども含めた、すべての人が快適で安全に移動できるよう、「人にやさしい道づくり」を引き続き推進していく。

## 3 評価

### (1) 施策幹事部長による1次評価

評価結果	●施策の推進状況
やや遅れている	歩道の段差解消箇所整備率については目標を達成しているが、バリアフリー適合証の年度別交付件数は横ばい状態であり、今後も同様の傾向で推移することが見込まれる。
	<b>●課題と今後の推進方向</b> ○新築住宅及び既存住宅の耐久性向上やバリアフリー化など、県民が安全・安心で快適な生活を営めるような住環境の質の向上や、すべての人が快適で安全に移動できるような「人にやさしい道づくり」を引き続き推進する。 ○県が策定したバリアフリー基本計画に基づき、公共施設のバリアフリー化率の向上やバリアフリー適合証交付件数の増加などの施策を実施し、引き続き、バリアフリー社会の実現に向け各種事業の推進を図る。

### (2) 企画振興部長による2次評価

評価結果	●施策の推進状況
	●課題と今後の推進方向

## 4 評価結果の反映状況等（対応方針）

--

## 5 政策評価委員会の意見

--